

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和7年度第4回岩手県大規模事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和7年11月11日（火）14：00～17：15

（会議 14：00～15：20、現地調査 15：30～17：15）

3 開催場所

（1）会議：岩手県立農業大学校 農業研修館 研修ホール（金ケ崎町六原蟹子沢14）

（2）現地調査：岩手県立農業大学校 本館（金ケ崎町六原蟹子沢14）

岩手県立農業科学博物館（北上市飯豊3-110）

4 出席委員

狩野徹委員長、島田悦作委員、竹内貴弘委員、濱上邦彦委員、松木佐和子委員、
松山梨香子委員、山本英和委員（8名中7名出席）

5 専門委員会議題等

（1）会議

大規模施設整備事業の事前評価について＜諮問審議＞

事前評価対象事業として諮問があった大規模施設整備事業について、事業担当課から評価内容について説明があり、これについて審議が行われた。

■ 専門委員からの主な質疑等は次のとおり。

【岩手県立農業大学校施設整備事業】

（質疑）

農業科学博物館の入館料収入が低迷しているとのことだが、現在の場所（北上市）と農業大学校の現在地（金ケ崎町）とのアクセス面での集客の違いを検討していれば教えて欲しい。

（回答）

農業科学博物館の現在の場所は、花巻市と北上市を結ぶ新しい県道沿いで、交通量が多い所にあり、これまでの利用状況として、主に小学校や保育園の遠足の途中で立ち寄っていただくことが多いのが特徴である。

一方、農業大学校の敷地には、隣接して県立花きセンターがあり、年間18,000人が、花を見に訪れていることから、その足で今度は本県の農業の歴史を学んでいただくような流れにしていきたいと考えている。

（質疑）

農業大学校の対象者は、学生や農業者等とのことだが、普通高校や農業高校の卒業者、一般の農業者など、入学者の内訳を教えて欲しい。

また、盛岡農業高校特別専攻科との違いについても教えて欲しい。

（回答）

入学者の内訳については、高校卒業後の入学者がほとんどで、近年の状況として、65%が

農業高校の卒業者となっている。

また、盛岡農業高校特別専攻科との違いについては、農業大学校は、これから農業に従事したい方が入学しているのに対し、盛岡農業高校特別専攻科は、すでに実家で農業を始めている方が農業に従事しながら、さらに知識を蓄えるために入学していることが多い。

(質疑)

昔の1学年130人程度から、徐々に少なくなって、現在は50人程度で一定になっているとのことだが、県内の高校卒業生数がこれから非常に少なくなる中で、10年後に完成してからも50人を維持できるのか心配されるが如何か。

(回答)

1学年130人程度は、30年前、学部・学科が現在よりも多かった時期の人数で、20年前から60人程度で推移している。

ご指摘のとおり、今後も少子化が進み、県内の高校卒業生数は、現在の1学年1万人弱程度から、10年後には、おそらく、6,000人から7,000人程度まで減少すると見込んでいるが、高齢化で農業者数が減少する中で、本県の農業を支える人材を育成していくためには、現状の1学年50人を維持していきたいという強い思いで設定している。

(質疑)

農業の形が大きく変革している時代であり、次世代のリーダーを育成するという目的のために、記載のとおり、スマート農業等、特にICTの活用が重要になってくるとされる。その中で、スマート農業等のカリキュラムの充実ということが書かれているが、そのような新しい教育内容に対応できるための空間づくりについての考え方を教えて欲しい。

(回答)

スマート農業への対応については、建物自体は普通の学校と変わらないが、現在は、タブレットやパソコンを持ち歩いて学習するのが一般的になっていることから、そうした環境に対応していきたいと考えている。建物以外の設備や機械導入等については別途予算が必要となることから、建設を進めながら、国の補助事業や交付金などを研究し、より良い学習環境を整備したいと考えている。

また、スマート農業は、特に機械やアプリ、ソフトウェアの進歩が目覚ましい中で、農業機械メーカーや販売店、ベンチャー企業等とも連携しながら、授業カリキュラムに盛り込んでいきたいと考えている。

(質疑)

収支計画について、収入見込みが1,000万円程度、支出見込みが4,400万円程度となっているが、スマート農業への対応等の機能強化の観点を踏まえているのか。

(回答)

収入見込みは、一人当たり年間118,800円の授業料等で積算している。また、支出見込みは、管理運営費と光熱水費を計上している。

なお、収支計画には記載していないが、国の農業普及事業交付金が年間7,000万円程度あり、今後も職員の人件費や、機能強化等の外部講師に対する謝金等への充当を見込んでいる。

(質疑)

現在の国公立大学の授業料は、年間55万円程度で、それでも運営が厳しいということで色々な大学が10万円程度引き上げているが、農業大学校の授業料の年間118,800円の位置付けや、どのように高校生への周知を図っているか教えて欲しい。

(回答)

農業大学の授業料は、県立高校と同じ金額である。農業大学は全国 42 道府県にあるが、大体同様の設定となっている。

授業料の他に、寮費についてもアパートを借りるよりも低廉に生活できる場所も含めて、県内の高校を訪問して、農業大学の良さや魅力を P R している。

(質疑)

これまでの経緯の検討状況について、27 億円規模の事業であるにも関わらず、検討期間が半年程度で今日に至っているように受け取れるが如何か。

(回答)

検討懇談会は、今年度設置し、基本構想案について意見交換いただいたものだが、それ以前に、農業大学の立ち位置や入学者・卒業者の状況等の現状分析を 2 年程度かけて行ってきたところ。その中で、農業者や農業関係団体、農業高校の先生方などから意見を伺いながら、基本構想の素案を作成し、今年 6 月から検討懇談会にかけたものである。

(質疑)

検討懇談会ではどのような意見が出されたのか、基本構想の内容が分からず、整備の必要性の流れが把握できなかったもので、次回教えて欲しい。

(質疑)

農業科学博物館の解体後の跡地の利用計画はあるか。

(回答)

現時点では未定である。

(質疑)

農業科学博物館の建物は、築年数がそこまで経っていないようなので、移転後に、例えば調理施設や加工施設にするなど、何かに利用できないかという印象を受けたが如何か。

(回答)

例えば農産物加工については、新しく建てる農業大学にも加工実習室を整備したいと考えている。今までは学生の実習室としていたが、新しい施設では、一般の農業者等が新たに 6 次産業化に取り組むために実習したい場合も対象にしていきたいと考えている。

なお、財源として、公共施設等適正管理推進事業のうち集約化・複合化事業、いわゆる集約化債に充てる地方債を活用することとし、2 つの機能を持つ建物を 1 箇所合築整備することで、県の財政負担の軽減を図ることから、移転後は、農業科学博物館を解体する方針としている。

(質疑)

財源として地方債を活用することだが、必要な財源であれば、それに応じた調達方法があると思うので、最初から制約を課すのではなく、もう少しフレキシブルに検討すべきではないか。

(回答)

財源については、公共施設等適正管理推進事業に限定して検討してきたわけではなく、例えば地方創生関係の交付金など複数の財源について検討してきたところ。その上で、集約化債の活用により、一般債で単独整備する場合と比較して、8 億円から 9 億円程度の県費の削減が可能と試算したものである。

(質疑)

農業大学は、非常に自然豊富なところで農業を学べる場所だと感じた。さらに農業科学

博物館が一体になることで、農業を学びたい人だけでなく、広く学べる場を提供できる空間になって面白い施設になると思われるが、設計業者の選定方法については、例えばプロポーザルで選定するなど、具体的にどのように考えているか。

(回答)

設計業者は、プロポーザルで選定したいと考えている。検討懇談会の中で出されたアイデアもプロポーザルの仕様に盛り込むとともに、専門家の意見も伺いながら、設計業者の選定後も設計に盛り込む内容を引き続き検討していきたいと考えている。

(質疑)

実際に工事を発注するまでの物価上昇やコスト増加についての今後の試算や、それに対応できる体制が取られているか教えて欲しい。

(回答)

現在の工事費は、国交省が示す最新の新営予算単価に基づき積算している。今後設計に入り、当初見込みよりも高くなることが想定されるが、専門家の意見を伺いながら、財政的な部分を含めて関係者間で検討していく必要があると考えている。

(質疑)

施設の建替え前後で延床面積が大きく縮小となっているが、部屋ごとの用途一覧はあるか。

(回答)

建物全体の延床面積は、あくまで一人当たり面積から基礎面積を出して計算したものであり、部屋ごとの間取りについては、今後の基本設計で総面積から割り付けることとなる。

(質疑)

諸室内訳の「展示室」が博物館部分に相当すると思われるが、延床面積が調理実習室と合わせても 195 m²で、展示室だけだとさらに小さいと思われる。農業科学博物館はもともと 1,500 m²程度あるため、そもそも収蔵品が収まるのか、あまりに規模が小さくなり、ただの収蔵室になってしまうのはもったいないと考えるが如何か。

(回答)

収蔵品をこの展示室に押し込めるということではなく、収蔵庫については、他の県有施設を活用しながら保存していくことで考えている。

また、現在の農業科学博物館では、常設展示で広大な施設内を歩きながら、昔の農業の歴史を見たりできるような展示方法だが、集約後は、そういった展示ではなく、例えばデジタル化なども検討しながら工夫して進めていきたいと考えている。

(質疑)

大学は平日昼間が中心で、展示関係はおそらく休日の方が、来客が見込まれると思うが、展示室も大学が運営するのか、複合施設として別な主体が運営するのか。

(回答)

平日だけでは対応できないことから、展示室の運用についても今後検討していく。

(質疑)

エアコンを新たに設置したり、スマート農業に対応した学習環境を整備したりということで、消費電力が非常に大きくなり、これまでより電気代がかなり上がることが想定されるが如何か。

(回答)

エアコンについては、今まで無かったものを新しく付けるため電気代がかかることとなるが、夏場の暑さ対策をしっかりと、学習環境を整備する必要があることから、エネルギー

効率よく運用できるような建物にしていきたいと考えている。

(2) 現地調査

岩手県立農業大学校及び岩手県立農業科学博物館の現地の状況について調査を行った。

■ 専門委員からの主な質疑等は次のとおり。

【岩手県立農業大学校】

(質疑)

年間の寮費等はいくらか。

(回答)

全寮制で寮費等 17 万円、食費 30 万円となっている。

また、教材費等は 23～34 万円と学科によって異なるが、授業料 118,800 円と全て合わせても年間 100 万円未満である。事例研究として、東京や神戸に行くための旅費も含んでいる。

(意見)

県外からの入学者は、卒業後の県内定着率が高いとのことであり、移住・定住にも効果があると感じた。

【岩手県立農業科学博物館】

(質疑)

農業大学校に集約後は、非常に規模が小さくなるが、農業科学博物館のどの機能がどこに集約されるのか、例えば収蔵機能がどのように維持されるのか、次回教えて欲しい。

(3) 会議資料

- 資料 No. 1 大規模事業評価諮問書 (写)
- 資料 No. 2 令和 7 年度大規模事業評価地区 位置図 (R 7.11 諮問)
- 資料 No. 3 大規模事業評価関係資料

【事前評価】

- ・岩手県立農業大学校施設整備事業 (金ケ崎町)

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0 人、報道 1 社

7 問い合わせ先

〒020 - 8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL : 019-629-5181 FAX : 019-629-6229

8 ホームページアドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/hyoukasenmon/1086023/1086028.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。